

TAKAMURA

簞

特集 わが青春に悔いあり!? —竹早高校の3年間 3~6



- 総会・コンサート案内 1・2
- 簞会会長・校長挨拶 7
- なつかしの先生 8
- 学校の活動報告 9
- 在校生の活躍紹介 10
- 第二回簞寿会 11・12
- 簞会特別セミナー 13・14
- 関西・湘南簞会だより 15
- 竹早エコー 16~18
- 簞回覧板 18
- 追悼抄 19
- 清里高原 竹早山荘から 20
- 簞情報館 21・22
- 平成20年度総会報告 23・24
- 理事会報告 25
- お知らせ・訃報・編集後記 26



会報編集委員

委員長	野川 淑子 (18回生)
委員	関 文隆 (10回生) 川島 己代 (15回生) 田村 和枝 (18回生)
	角掛 隆 (10回生) 水津 彰 (16回生) 森 多恵子 (18回生)
	小杉 義信 (11回生) 古山 浩之助 (16回生) 伊藤 孝 (19回生)
	市瀬 勝信 (13回生) 佐藤 美紗子 (16回生) 鈴木 輝夫 (19回生)
	遠藤 きみ (13回生) 足立 裕宏 (17回生) 木村 民子 (19回生)
	背戸 民恵 (13回生) 原 嘉昭 (17回生) 香川 洋子 (20回生)
	茂木 伸太郎 (14回生) 秋田 秀明 (18回生) 池上 美知子 (20回生)
	山内 亨 (14回生) 一柳 由貴子 (18回生) 小林 稔 (23回生)
	長谷川万里子 (14回生) 笹平 久仁子 (18回生)
	土田 善則 (15回生) 鈴木 玲子 (18回生)

簞会報

発行日 2009年4月22日
 発行 簞会
 〒112-0002
 東京都文京区小石川4-2-1
 東京都立竹早高等学校内
<http://takamurakai.com>
 編集 簞会 会報編集委員会
 印刷 望月印刷株式会社
 埼玉県さいたま市中央区円阿弥5-8-36

同じ時代を共に生きた、かけがえのない絆。
あの頃の笑顔に、戻れる場所があります。

平成21年度 箏会総会のご案内

日時

2009年6月28日(日)

受付開始 10:30
総会 11:00~11:30
コンサート 11:45~12:30
懇親会 12:45~14:45

会場

ホテル グランドパレス
2階ダイヤモンドルーム

千代田区 飯田橋1-1-1
TEL 03-3264-1111(代表)

会費

8,000円

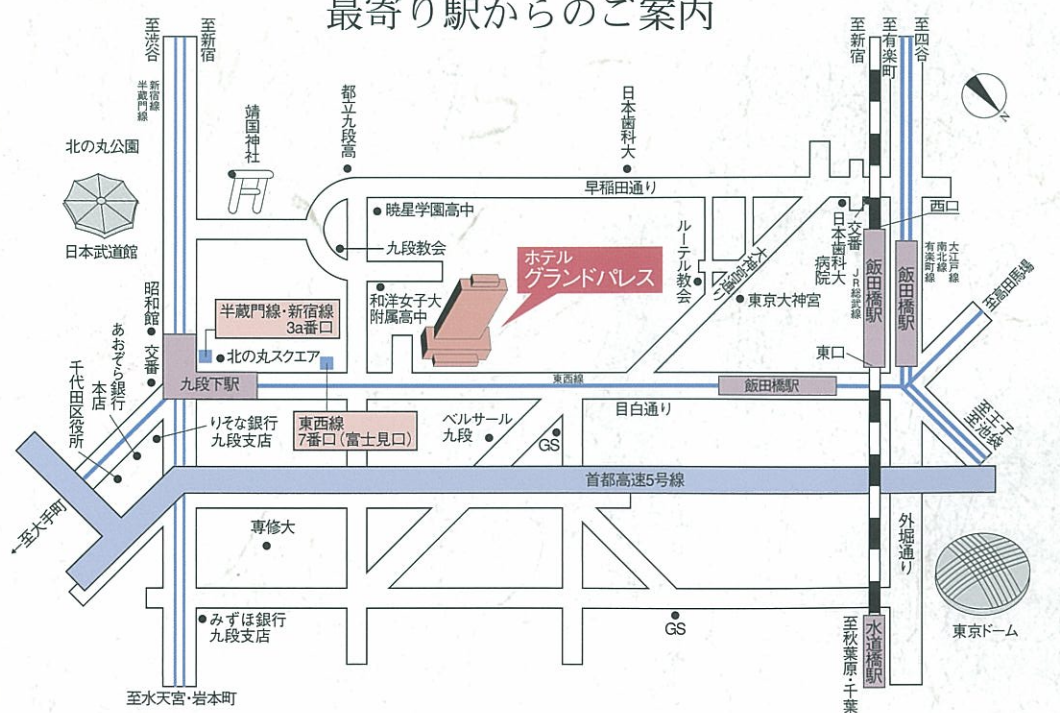
(平成18~20年卒は2,000円/平成21年卒は無料)

- ご出席の方は、同封の葉書で6月5日(金)までにお申し込みください。
- 会費は、6月12日(金)までに同封の郵便局振込み用紙にてお支払いください。

交通のご案内

- 地下鉄「九段下駅」より徒歩1分
・東西線7番口(富士見口)
・半蔵門線・都営新宿線3a番口
- JR・地下鉄「飯田橋駅」より徒歩7分
・総武線・有楽町線・南北線・大江戸線
- 東京シティエアーターミナル(半蔵門線「水天宮前駅」)より10分
- 羽田空港より
地下鉄浅草線 京浜急行 羽田 → 日本橋駅 30分 → 地下鉄東西線 日本橋駅 → 九段下駅 7分

最寄り駅からのご案内



今回幹事

高校19回生
高校30回生
高校40回生
高校60回生

次回幹事

高校20回生
高校31回生
高校41回生
高校61回生

総会・懇親会のお問い合わせ先

鈴木 輝夫
TEL.045-865-0256

木村 民子
TEL.03-3823-4365

総会・コンサート ヴィオラ奏者紹介



♪ハンガリーの心を奏でる♪

筒井 はるみ氏

筒井はるみさんは、在学当時の控えめな人柄からは想像もできない、われらが誇る、いや日本が誇る世界的なヴィオラ奏者です。しかも、小学校に上がったばかりの女の子の現役のお母さんです。時折、私たち同期生をあっというまに筒井さん、その活躍ぶりが今後も大いに期待されます。

- 日本・ハンガリー間を中心に芸術分野での国際文化交流及び若手の国際舞台で活躍する芸術家育成を目的とするNPO国際文化振興芸術家協会を主宰。また日本ユネスコ協会に所属するNPO日本翻訳家協会においてハンガリー語を専門とし、理事を務める。
- 日本で初めてのヴィオラ奏法の指南書「プリムローズのヴィオラ奏法」(2007年音楽之友社刊)監修。

- 東京藝術大学に在学中、世界のヴィオラの独奏者として第一人者W・プリムローズの薫陶を受け、以来今日までヴィオラの独奏曲の本邦初演を行っている。クラシックの分野のほかハンガリーで唯一のジブシー音楽学校にてジブシー音楽も学ぶ。初めてのヴィオラによるジブシーヴァイオリン独奏者としてハンガリーで演奏活動を行い、後に日本でもジブシー音楽紹介のための活動も行う。

プロフィール

Profile

都立竹早高等学校卒業(第19回生)。
東京藝術大学音楽学部器楽科弦楽器ヴィオラ専攻卒業。
民族音楽の世界的権威、小泉文夫氏の下で民族音楽ゼミにて学びわらべ歌、沖縄の民謡採集にも参加。
同大学大学院及び専攻科修了。東京音楽大学講師、東京都交響楽団員を経て、1976年ハンガリー国立リスト音楽院留学。
当時社会主義下にあったハンガリー留学中日本人として初めてハンガリー語・日本語通訳翻訳国家資格上級を取得。専門のヴィオラ演奏家として独奏者としての国家資格も取得、ハンガリー各地で演奏活動を行う。

1980年、日本に帰国後、全国各地及び海外、米国、ヨーロッパ、アジアなどの国々にも演奏活動を行う。
ハンガリーの世界的名弦楽四重奏団、バルトーク弦楽四重奏団が来日の際にたびたび共演し好評を博す。

クラシックの名曲小品

- ヘンデル 「ラルゴ」
- シューベルト 「アヴェマリア」
- ドビュッシー 「亜麻色の髪の少女」
- グザルノフ 「エレジー」
- ヴォーン・ウィリアムズ 「グリーンズリーヴズ」



わが青春に悔いあり!?!—竹早高校の3年間

竹早高校を昭和42年(1967)に卒業した19回生は、「一休会」と名づけた同期会をここ二十数年毎年のように開催してきました。

ところが、昨年から今年に還暦を迎えた中年男女が楽しく語らう中にも、初対面のようなぎこちなさが見られます。さて、その理由は?

各クラスからの代表と織戸先生、晴山先生に、入学当時から卒業までの思い出を心おきなく語っていただきました。

座談会参加者

織戸さなへ先生、晴山文男先生

吉成佳夫、菅原哲朗、鈴木輝夫、吾郷正子、藤屋美千代、境衛子、木村民子 2008年7月17日 池袋にて(まとめ:木村)

入学してみたら、なぜか男女別クラス

司会(木村) 私たちが入学したのは昭和39年オリンピックがあった年です。この年4月、加藤校長が赴任され、私たちの学年は男女別クラス編成でした。それによって高校3年間という多感な青春時代に悔いがあったのではないだろうか、いやかえってよかったのではないかといろいろな感慨をお持ちの方がいらしたと思います。私たちが1年2年のときは上級生は男女一緒に楽しそうな気配もありましたし、またかえって大変だなという雰囲気もありました。

そこで、今回の会報の特集は、男女別という特異なクラス編成で始まった私たちの学年はどんな高校生活を送ったのか、振り返ってみたいと思います。まずは入学当時の思い出を自己紹介を兼ねてお話しください。

藤屋 旧姓関です。入学したときはC組桑原先生、2年は晴山先生、3年は織戸先生。男女別クラスについては、私は大学が女子大でして、男子が周りにいなかったの、個人的には勉強するときは男子も女子もあまり関係ないかな。授業が終わってからは部活とか他校との交流とかで結構楽しんでいました。

吾郷 旧姓中川です。1年桑原先生、2年織戸先生、3年三上先生で3年間卓球部でした。編入試験で1年の2学期から入りました。編入試験の募集要項に男子と女子の人数が逆に書いてあったので、あら、この学校は男子が多いのかなと思っていました。父が昔文京区にいて、すごくいい高校だからって勧められ、受かったときは優秀な高校に入ったってすごく喜びました。

境 E組の境です。1年のときは岡野先生、2年、3年E組で青木先生。3年間ずっとE組ってというのは、何人かしかいないと思います。大塚町で都電を乗り継いで通っていたんです。都電を乗り継がないで、友達のように池袋から電車で帰りたいなってあこがれていました。

何で竹早かという、私の祖母が府立第二高女を出ていて、教師をしていたんです。私、祖母のことが大好きで竹早以外考えられなかったし、おとなしいいい子だったから反発もなかったですね。あの頃は人数が多すぎてクラスの55人の名前が全部

はわからなかった。

藤屋 私は学級委員長していたから、出席を取るの、いまだに、学年ごとに全部覚えています。(すごいという声)

吉成 男性は少ないからクラスの顔ぶれはだいたいわかっていました。僕は1年A組で青木先生。中学のときにバレーボールをやっていたので、入学前から春休みに呼ばれてバレー部で同期の仲間と一緒にやっていた憶えがある。

菅原 私は小石川を受けて不合格になり竹早に入りました。入ったとたん男子学校に入ったというイメージ。青木先生に出会い、鉄棒をやれ、それから校内をランニングしろ、と言われて「あ、これは、男子校の教練と同じじゃないか」と思いましたね。

僕は中学から柔道をやっていたので、当時柔ちゃんみたいな女子の柔道部員は存在しませんでしたから、ひたすら、男子だけの生活なんですよ。だから高校3年間も、ずっと男子だけで唯一女子と会えるのは、補習のときだけ。へえ、面白い学校に入ったなって思っていました。

吉成 先生がすごく張り切っていましたね。

司会 当時学区制で竹早は第4学区だったんですね。竹早を受験しなくても、小石川高校から来たというのは、第何志望ということが書けたからですね。

晴山 どこでもそうなんだけれど、まず第1志望を調べて、それで

定員が満たされない場合は、第2志望から取って入学させるわけ。だから第1志望で定員いっぱいになった学校は、そこで合格者をうち切ってしまう。

鈴木 僕は最初から竹早を第1志望にしていた。竹早にストレートで受ければ受かるよと...

1年のときにはA組、青木先生。青木先生が教え子と結婚したという話を一番最初にホームルームで聞いて「ああ、先生は生徒を選び取り見取りなんだ」と思った。(笑い)竹早で先生と生徒が結婚しているっていうのは、他にもありましたね。(棚橋先生もそうという声)

僕たちの代も同期で結婚している人もいるし、クラス別って関係ないのかな。でも、やはり僕たちは男女別クラスでがっかりしたというか。先生はそれまで男子が静かだったので、男子に気持ちよく学校生活を送らせてあげたかったからじゃないかな。

男女別々にしてのびのびと育てたい

司会 先生方はどういうお考えで男女別クラス編成に踏みきったのですか。

織戸 あなたたちが入る前に、3月になって担任が発表されてからは担任の先生6人が毎日毎日集まって話しあったんですよ。人数がとにかく少ないのだから、男女拮抗するためには男女別にして、各50人のクラスを作りたいと。運動でも何でも男女一緒にやると男女別枠でやりたいという希望を持ってね。

それこそ、あなたたちのときは100人だからまだいいけれど、私たちの頭には、男子が全体で5人の時代、50人の時代というのがあって、ずっと何とかしたいと思っていたの。5人なんて埋没ですよ。50人だって分けると一つの組に男子はわずか8、9人です。そうすると、結局役員だって女子

のほうが多いので男子の意見が埋没しちゃうでしょ。そういう経験があったから、あなたたちの学年はもう100人になった時代だから少し違うのだけれど、その頭があって、女子と一緒になく、男子だけの組にして思い切った指導の教育をしたいと考えたのね。

吾郷 どうして男女別にしたか、國廣先生は授業のときよくおっしゃっていましたね。男子が小さくなってからって。

藤屋 それって大成功じゃないですか。私一番最初に同期会に来て思ったのは、本当にひとつの街ができるくらいいろいろな職業の人がいるし、皆さん素晴らしい才能を発揮して頑張っているっていうのをすごく感じた。だから、やはり、土台っていうのは高校のときにできるんじゃないかって思いました。

吉成 僕はあまり男女別クラスでも違和感はなかったですね。クラブなどはバレー部で男子と女子とほとんど交流はなくてぼちぼち話はしていたんですけど。文化部、生物部などは男女一緒にうらやましいな、まちがえたかなと思ったこともありました。

菅原 男子全員が柔道をやったという記憶がありますよね。

晴山 戦前は教員は皆が柔道か剣道をしなきゃいけないわけね。だから柔道か剣道のどちらかは誰でも指導できたわけ。ところが新制になってわれわれの頃(戦後)はだめだと言われて、柔道も剣道もやっていないので、われわれは指導できない。徳永先生は特別で(国体選手級)、ものすごい技量の持ち主でした。要するに昔の人は皆やっていたんだけど、戦後は軍国主義につながるということで、アメリカの政策で、柔道も剣道も禁止されたんだよね。世の中がだいたい落ち着いてきてから、徐々に復活し、最初はクラブだけとか、そのうち授業でも男子は必修になった。あなたの方がその時期と重なったかどうかは定かではないが。

司会 男女別学っていうのは結果的にはよかったという?教える立場としてはどうだったんですか。戸惑いとか雰囲気が違うとか。

晴山 私は竹早に来る前は、3年間私立の女子高でやって来たんですよ。都立は初めてなものだから新人扱いというか、まあ見習いみたいなもので、1年目は生徒部という部に配属されました。朝は立ち番をし、遅刻の指導をしました。

初年度は男女共学の2年と3年の授業を持っていましたね。翌40年になって棚橋先生が異動されたので、私が新米で、2年生の担任になりました。クラス担任になってみると、特に数学の成績を上げたいという気運は、先生の中に感じましたね。それが男女別学につながったかどうかは、わかりませんが。

実はどうしても、第二高女の昔からの流れで、第1希望の優秀な女子がどんどん入って来て、男子はどちらかというまあ、安全に入れるような層が入ってくるわけですよ。そうすると数学のような科目では質問に答えられない子が続出するわけです。そのため、やはり男子は萎縮しちゃうんじゃないかという先生方の意見が多かったんじゃないかな。だから男女別々にしてのびのびと育てたい、と思うわけです。と同時に、授業も学力差があると、正直言ってものすごくやりづらいわけですよ。

司会 補習は男女一緒にしたんですね。

織戸 それは成績順でしたけれど、クラスが男女別だったことも、影響のひとつかもしれないわね。

藤屋 男子も女子も同じレベルじゃないと先生方は授業が絶対やりにくいですよ。やはりレベルの違う人がいるとすごくやりにくいんじゃないですか。

晴山 だから、結構レベルを上げなきゃいけないのと、やはりそういう(男女の学力差を)配慮をしなくちゃいけないとかね。だから、どこに焦点をあわせたらいいかっていうのが、大変難しかったですよ。あの、下位のほうを切り捨てるとかおいそうだし、だから補習をやって学力を補充するとかね、面倒な問題はありましたよ。

ただ、男女別にしたため、それぞれ能力にあった授業ができて、学力の面でも、それぞれ全員が伸びて大変よかったんじゃないかな。この学年はお茶大だって、全国2位とか言っていました。男子も結構いいところ入りましたよ。だからそういう点では、成果が上がったんじゃないかと、私は思っていますけれど。

しかし、高校紛争後予備校が繁盛し、都立の先生で予備校に行く方が多かったんじゃないかな。僕は受験戦争にあまり加担



するようなことはいかんと考えていました。だから補習はいかんしね、予備校に行くのはいかんと思っていた。この頃は逆なんだよね。最近では予備校の教師のほうが優秀だから連れてきて、学校で授業をさせるなどひどい状況ですよ。

吾郷 でも、補習のおかげで私も塾も予備校も行かずに済んだし、内容的にも充実していましたよね。

晴山 まあ、先生方は生徒の実力を知っているからね。

織戸 授業との関連もまずできますしね。よそへ行く時間のロスもない。

晴山 あれだっていい加減にやっていたんじゃないんだよ。PTAの了解もあって。

司会 何か教育委員会のほうに、申請とか、許可とか出したんでしょうか？

晴山 あったかもしれませんが、そういうことは私どもの段階では聞いたことがない。

司会 裁量は学校で？

晴山 便宜的にそういうクラス編成をしているというだけで、本来は共学ですから。

ただ、当時の教育庁の対応も悪かったと思うんだ。やはり、男女同数にすべきだよ。紛争が起こって徐々に改善され、今は同数になりましたがね。

藤屋 自然体っていうのが一番よいと思います。同数でレベルも変わらないというのが一番よいと思います。

学校群制度導入前夜

菅原 私の記憶では小尾教育長が学校群制度を作ったときに、最初小石川と竹早が一緒じゃなかった。竹早は赤城台高校と一緒に。それに対して、どう思いますかって学校群について新聞記者の取材があった。それに宮尾先生(数学)がいいんじゃないですかって答えたことが新聞記事に載り、あとから、あれは私の本

意ではなかったって、われわれのところに来てきた。なかなかあの頃っていうのは、教育の改革もあるし、外では、大学紛争がそろそろ起きるんじゃないかっていう匂いの時代に入っていた。大学に入ってからは急速にね。

司会 学校群に関しては、生徒集会をやりませんでした？

菅原 やったやった。それで最終的に小石川と竹早が一緒に組になった。

司会 だからあの頃の紛争のハシリですよ。

吾郷 やはり受験戦争がいき過ぎちゃったからって、この学校群制度ができたんでしょう。

菅原 学校群制度を調べてみたんだけど、小尾さんの意図は日比谷高校つぶしが第1目的だった。

織戸 そうそう。今教育格差といっているけれど、小尾さんはその種をまいたわけね。それで公立学校が元気がなくなったというわけね。私立志向を高めるための画策と言われたわね。

鈴木 でも、われわれの学年はそんなに大騒ぎになるような生徒はいなかったじゃない。学生運動とかさ、あまりなかったじゃない。

晴山 学校群問題では、あなた方が卒業してからが大変だった。

司会 私たちは、学校群前のよき時代の高校生活だったと言えますね。

尽きぬ思い出、 変わらぬ友情、恩師への思い

司会 修学旅行は、昭和40年、2年生のときで、行きは新幹線で帰りは日の出号に乗りましたね。京都から淡路島、小豆島へ行ったんだけど、私そのときのバスガイドさんが歌った「♪小豆島山忘らりょうか」っていう唄忘れられません。(女性たちで合唱)

吾郷 修学旅行はずいぶんいいところへ行った気がしました。京都、淡路島、とか。京都も嵯峨野とか屋島とか、古典に出てくるようなちょっと行けないようなところへ行きましたよね。淡路島では

人形浄瑠璃を見ましたし、それから小豆島では地引網でしたか…。
私たちは旅館の部屋では、「骨まで愛して」という歌をテレビで見ていたわね。

吉成 部屋にいた男子は、皆飲んでいたので、帰りの電車の中でまず呼びだされて怒られて、帰ってからも「保護者連れて来い」て又怒られて、その思い出が強烈。

境 文化祭で印象に残ったのは、やはり菊地さんたちの演奏。竹早でこんなことがやれるんだって。

菅原 そうそう、文化祭で菊地がエレキギターをやったんですよ。イーって。他校生がドラマーをやったんで、菊地は正面で、そいつだけ外に出て、舞台から外れて、ドラマーをやった。(かわいそうという声)

織戸 だけどあれは問題になって大騒ぎになった。エレキをすること自体大問題だったの。

吾郷 この間、同期会で菊地さんたちに「あの時はそんな甘いものではなかった」というような話を聞きました。だけど私なんかはエレキを聞いてすっかり感激していました。エレキを聞くということ自体がすでに反体制だったのですね。

境 そうい時代だったのね。

司会 ビートルズが来た頃ですよ。

晴山 私は女子組の担任だったから、それらの問題に関しては余り印象になかったが、男子の担任はいろいろ指導しなくちゃいけなかったから厳しかったんじゃないかな。

司会 竹早ではいろいろな問題がその後新聞でも報道されましたね。

晴山 あのときはあなたたちが卒業したあとだったが、とにかく、先生方が悪いことをしたと大変だった。

藤屋 私たちも大学紛争の時代だったから…。
(全共闘や教育大のつくば移転問題などの学生運動が起きた)

織戸 あの3年間はめっちゃめっちゃだったわね。
学校群制度で入学して来た生徒たちは、竹早に対して希望

ではなくて、割り当てで入ってきたから、1年のときから、雰囲気が変わっていたのよね。

藤屋 私たちとは愛校心が違うのかもしれないね。

菅原 僕たちが3年のとき、昭和41年に全学年が男女別クラスになったんだ。

だから「わが青春に悔いあり」じゃないですけどね、男子が女子をまったく知らないんで、同期会というものを作ってこうと思った。逆に、そういうつながりを持っていくのがいいのかなっていう気があって、僕は長いこと、幹事をやってきたというわけ。

しかし、青木先生が同期会に最後の最後まで出席されなかったのが、やはり残念ですね。

吉成 卒業アルバムの中、青木先生の「悩みを突き抜けて歓喜に至れ」がいいよね。(男性たちドイツ語で暗唱)

司会 愛校心の話まで出てきましたが、私たちの学年は毎年同期会を行って、今頃になって男女が仲良く歓談しているというのは、男女別クラスという特殊な3年間を送ったおかげかもしれないね。今日はお二人の先生からも率直なお話をいただき、ありがとうございました。皆様も長時間お疲れさまでした。



晴山先生、織戸先生を囲んで



今だから言える 加藤校長秘話

晴山先生談

●実は竹早に決まる前に、雪谷高校に面接に行ったのです。当時雪谷高校の校長は加藤校長で、私は雪谷高校のつもりで伺ったのですが、本校ではなく、分校のほうにお願いしたいと言われたので、申し訳なかったが断ったんだよ。小石川高校からも話はあったが、当時私は小石川高校のことはよく知らなかったの、竹早のことは多少知っていたし、竹早なら母校の大学にも近く、勤めの帰りにたまには勉強に寄れるのではないかって、竹早の関校長と面談をして採用された。ところが4月1日になって新任の挨拶に校長室へ行ったら、そこには関校長ではなく、あの加藤校長が竹早の校長に赴任していらしたので、本当に驚いた。

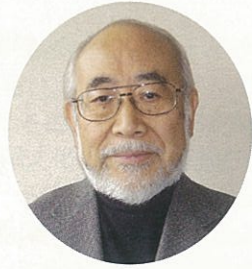
●次は諏訪の合宿で、野球部の練習を見学に行った時の話です。

国さん(國廣功先生)と土屋さん(土屋正孝先生)と私の3人で、合宿が終わったら静養がてらゆつくり温泉へ行こうと約束していたんだが、国さんが「晴山さん、申し訳ないが都合が悪くなって行けなくなった」と言われた。とそのとき、そこに居合わせた加藤校長が「夏休みは家じゃすることもなし、俺がかわりに行ってやるか」ということで、結局校長さんと3人で行ったんだよ。

法師温泉に3泊したんだが、校長さんとは普段の付き合いもそれほどなく、しゃべることもそんなにない。しかも3日間、土砂降りどころにも出られないんだね。することもないので、校長さんが「碁でもやろうか」って言われたが我々は五目並べしかできなくて、温泉につかっては五目並べをする、その繰り返しの3泊4日でしたよ。加藤校長はスタイリストでかっこよく、なかなか面白い校長さんでしたよ。加藤校長はあなた方と3年間一緒に、あなた方の卒業と同時に退職されたんです。

19回生の3年間・・・竹早 HISTORY

■ 竹早 HISTORY ■			■ 日本と世界の動き ■	
昭和39年(1964)	4月	関一穂校長離任、加藤三郎校長着任 本年度入学生より男女別クラス編成となる。(男子2クラス、女子4クラス)(表紙の写真)		
	6月	3年生が流したピンが台湾に漂着、報道関係から取材を受ける 女子バレーボール・卓球大会		
	8月	住所表示変更に伴い、所在地は文京区小石川4-2-1となる		
	10月	オリンピック文京区聖火リレーに生徒9名参加	9月	東京モノレール開業
	12月	柔道大会	10月	東海道新幹線開業 オリンピック・東京大会開催
昭和40年(1965)	3月	オリンピック記念映画鑑賞(文京公会堂) 2年生修学旅行(関西方面へ、初めて新幹線を下りのみ利用)	2月	米軍機北ベトナムを爆撃
			11月	都教委「入試準備教育の是正について」通達 (補習教育の廃止など)
昭和41年(1966)	4月	全学年男女別クラス編成となる。(昭和41年度と42年度のみ)	6月	ビートルズ来日、日本武道館にて公演 都教委、都立高校入試制度改革基本方針を決定 (学校群制度・内申書重視・3教科受験など)
	10月	雨天のため、運動会1週間延期(表紙の写真)		
昭和42年(1967)	2月	学校群制度施行の最初の入試(小石川高校と41群を組む)		



ありがとう

磯貝 恵三

高校7回生(昭和30年卒) 篁55回生

おかげさまで昨年の篁会行事はさらに発展し、楽しい企画が目白押しでした。

「をとめの会」は封印されていた「篁寿会」の名称が復活し、11月に開催されました。次年度の具体的な計画も即日決定です。竹早祭の「お休み処・たかむら」も板につきました。2年目となる「学年幹事連絡会」は、理事の若返りにもひと役かっています。

そして「篁会特別セミナー」の実現です。7月8日(火)の午後、父母と教師の会のご協力をいただきながら、2年生全員を受講生に行われました。「むしろ勉強させていただいた」と先輩講師の方がた、そのおことばに甘えて、今年もよろしく願います！ これらの企画や行事にかかわった理事、各種委員、総会担当学年の有志、協力メンバー、そしてセミナーの先輩講師の皆さまにあらためて感謝いたします。

わたくしごとですが昨年はイスラーム圏のウズベキスタンとチュニジアに旅しました。とりあえず「ありがとう」のご当地ことばのみを持参、あとはメモ用紙と身振り手振りに頼ります。

ウズベキスタンは1991年に旧ソ連から、チュニジアは1956年にフランスから独立しましたが、それぞれ持ちつ持たれつとの関係を維持しています。そのせいでしょうか、ウズベキスタンのありがとうは、「ラフマツ！」よりスパシーバの方が通りやすいし、チュニジアでも「シュクラン！」の代わりにメルシーが一般化しているように見受けました。日本でも、何気なくサンキューを使っていますが、まだ親離れができていない？からでしょうか。

でも、使わないよりまし。このところ、特に電車の乗り降りに感じますが、ことばがありません。ひとことの「すいません」を惜しんで肩で押しのかます。道をあけても「ありがとう」はなく、当然会釈もなく通りすぎます。「どうも！」だけで良いのにと思いますが。

先きの、それぞれの国では、行き交う人びとがみなニコニコと手を振ります。トルコでもそうでした。彼らのさわやかな笑顔は、地球はひとつ、宗教をこえて世界はひとつつながりなんだよ、と語りかけていました。ことばに勝る共通語の笑顔に接し、「ありがとう」と心の中でつぶやきます。

来年は創立110周年、多くのありがとうに支えられて更なる変革が予感されます。

会員各位のご健勝とご活躍を祈ります。



感謝の気持ちを大切に ～箱根駅伝に学ぶ～

浅田 博

竹早高校校長

篁会の皆様には、常に母校の教育に温かいご支援を賜り、深く感謝いたします。お蔭様で教育環境の充実が図られております。

また、平成20年7月には、卒業生を講師とする出前講座[特別セミナー]を実現していただきました。磯貝会長をはじめ、多くの皆様のご協力がなければ開催することができませんでした。あらためてお礼を申し上げます。これからもよろしく願います。

今年の箱根駅伝は、優勝チームの監督胴上げがありませんでした。ゴールイン後、東洋大学の選手たちは整列して、ゴールに向い礼をしました。応援をしてくれた多くの人たちに感謝の気持ちを表わしたものでした。

昨年12月、部員の不幸事で東洋大学駅伝部は大きなショックを受けました。5日間の練習自粛、監督の辞任等、箱根駅伝を辞退することも考えられるような状況であったようです。

着々と実力を蓄積してきた選手たちにとって、この直前の事件は計り知れない衝撃であったと思います。

しかし、選手たちは一丸となって困難を乗り越え、箱根駅伝に臨むことができました。選手は、駅伝に出場できる「感謝と喜び」の気持ちで走ったのです。各大学の実力が伯仲する中、東洋大学の選手10人は実力を出しきり、見事に往路、復路、総合優勝を達成しました。

私は、今年の箱根駅伝から非常に大切なことを学んだと思いました。私も感謝の気持ちを忘れずに、心新たに努力していこうと思います。

教職員、生徒、保護者、同窓会の方々と共に、竹早高校の発展を目指していきたいと願っています。会員の皆様のお力をお寄せいただければ幸いです。

皆様の益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

なつかしの先生



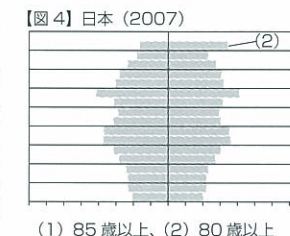
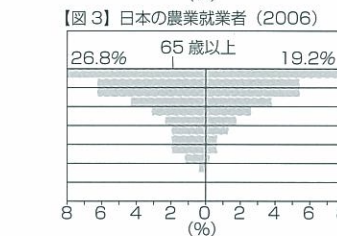
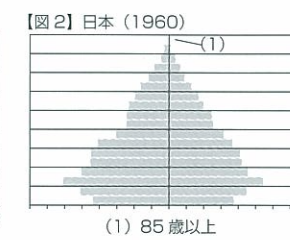
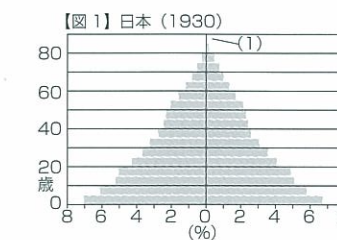
「最近の思う事」

土屋 正孝 先生

社会科地理担当
(昭和38年4月～昭和48年3月在職)

最近、少子高齢化、金融危機等複雑な問題が起こっています。近いうちに後期高齢を迎える私は様々なことを思い出します。本校に赴任した当時、第1次ベビーブームの生徒が入学してきました。授業で、マルサスの人口論をとりあげ、「人口は等比数列的に、食料は等差数列的に増加する。この状況から人類は何時か飢饉に陥る。それを避けるためには「家族計画」の実施が必要である」と教えてきました。我が国の人口構成推移は「富士山型」(図1)から「お銚子(とくり)型」(図2)となり、このまま人口減少が続けば「こま型」(図3)になる。現在の人口1億2000万は近いうちに半減するといわれています。その後、第2次ベビーブームで、「瓢箪型」(図4)となりました。「年金制度」「医療制度」等は、少子高齢化の影響を強く受けています。

最近、結婚する若い人が少なくなっています。我が国の子育てに対する保障制度が整っていないためでもあります。以前、仲人をよく頼まれました。最近ほとんど頼まれません。男性から「結婚相手を探して欲しい」と依頼を受けますが、相手となる女性がいまいません。このまま結婚する人が少なくなりますと人口減少がさらに進むと思います。街中で外国の若人によく出合います。私の知人で外国人と結婚する人が増えています。日本は、益々多様化し新たな環境の下に生活することになるのでしょう。先日、学年同期会(昭和46年3月卒)がありました。その中に清里高原・竹早山荘の運営に協力している方が何人もいました。婚活を支援する場として、山荘を利用するよう篁会にもお考え頂きたいと思えます。竹早高校の益々のご発展と篁会の彌栄を祈念致します。



「想いの変化」

平川 悟 先生

英語科担当
(平成16年4月～平成20年3月在職)
高校52回生(平成12年卒) 篁100回生

『まあ、いい学校だったかな・・・』

平成12年の3月の卒業式。淡々と進む自身の卒業式で生意気にもそんなことを思っていました。

『こんなにいい学校だったっけ?』

大学4年の9月。教育実習生として久しぶりの母校。3週間57回生と一緒に勉強し文化祭に向けて生活をともにしました。教職の難しさとおもしろさを教えてもらいました。生徒にも恵まれ実習が終わるのが名残惜しく、今でも担当だった2年B組の生徒が書いてくれた「いい先生になれるよ」という色紙は宝物です。

『こんなにいい学校だったんだ!』

そして平成16年の4月。新任教諭として母校に戻りました。(その当時の想いは16号に寄稿しましたので割愛します)4年間の教員生活を母校で送り、17年からの3年間は60回生の担任となりともに過ごしました。この3年間をふりかえり、卒業を祝う会では今までの人生でもっとも幸せな日々だったと述べました。

何をもってこう言わしめたのか・・・やはり生徒達だったと思うのです。生徒部ということもあり説教もたくさんしましたが、多感な3年間で信じられないスピードで成長していく生徒達に囲まれ、毎日がとても充実していました。部活に燃える姿、行事に燃える姿、友情を育む姿、受験に立ち向かっていく姿、どの瞬間も彼らは輝いていて刺激を与えてくれました。

そして平成20年の卒業式。担任として呼名をする私は情けないほど泣きじゃくっていました。

卒業生に出会うと「竹早で良かったよ」とよく笑顔で話してくれます。そして今私も心の底からそう思えます。竹早の良さに気づかせてくれたのは生徒達でした。7年かけて私もやっと竹早を卒業できたのだと思います。たくさんのことを教えてくれた竹早で出逢った全ての人に、想いを劇的に変えてくれた生徒達に感謝の気持ちでいっぱいです。

『いやあ・・・竹早で良かった!』

学校の活動報告

竹早高校副校長 八百板真弓

箠会にはいつも多大なる御支援を賜りましてありがとうございます。磯貝会長をはじめ卒業生の皆さまの御協力により、箠会特別セミナーが実現しました。平成20年7月8日午後、2学年生徒を対象として、9講座開講していただきました。理事会のアンケートのまとめでも、この企画について生徒224名中121名(54%)が「賛同する、続けてほしい」と回答しています。今、生徒が自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択できるよう、学校の教育活動全体を通じ、計画的・組織的な進路指導を行い、キャリア教育を推進することが求められています。本校では教育課程を改善し、21年度から2、3学年の総合的な学習の時間を「自己の適性と進路を考える」といたします。今後とも御支援・御協力をお願いいたします。

さて、都立高校では、平成16年度から「生徒による授業評価」を年に2回(7月、12月)実施しています。本校を所管する東部学校経営支援センターの勧めにより、平成21年3月25日に授業

評価協議会を開催しました。出席者は生徒代表4名、保護者代表2名、学校運営連絡協議会協議委員1名、校長、副校長、主幹教諭、教諭3名、東部所統括学校経営支援主事、学校経営支援主事の計15名です。生徒からは、「生徒による授業評価を実施するに当たって、意義、重要性をもっと説明する必要がある」、「『意見や要望があれば、記入してください』ではマイナス面をとらえて記載しがちなので、プラス面についても記載することのできる表現の工夫がほしい」、「生徒が要望を書いたから変えなければいけないというものでもない。先生は変えられないことは変えられないとはっきり言ってほしい」等の意見が出ました。生徒による授業評価の充実、そして何より授業改善を目指して、授業評価協議会で出された意見等を踏まえて取り組んでまいります。

以下、年間の活動と進路実績を御報告いたします。

平成20年度の主な行事

- 4月 7日 始業式 8日 入学式(238名入学) 17日 健康診断
- 5月 1日 生徒総会 2日 校外学習(1学年相模湖ピクニックランド、2学年羽田・横浜、3学年ディズニーリゾート、ディズニーシー)
- 14日 体育祭(小石川グラウンド)雨天中止、28~30日 定期考査
- 6月 2日 定期考査、避難訓練 7日 授業公開
- 10日 午後体育祭(本校グラウンド) 24日 学校運営連絡協議会
- 7月 2~4日、7日 定期考査 8日 箠会特別セミナー2学年
- 16日 大学講座2学年 17日 保健講演会 20日 終業式
- 7月~8月 夏季休業日 講習 6教科29日実施
- 合宿 尾瀬(男女バスケットボール、男女硬式テニス、ソフトテニス、バドミントン、ダンス、吹奏楽、箏曲) 霧ヶ峰(陸上競技)
- 猪苗代(軟式野球) 山中湖(サッカー) 静岡(水泳)
- 片品(男女バレーボール) 清里(美術)
- 9月 1日 始業式、防災講話 12、13日 竹の子祭 14、15日 竹早祭
- 10月 4日 授業公開、学校説明会 21~24日 定期考査、
- 21日 学校運営連絡協議会 28日 都立高等学校等合同説明会(墨田川高校)
- 11月 7日 開校記念日 9日 都立高等学校等合同説明会(新宿高校)
- 29日 体験入学・体験入部、学校説明会
- 12月 8~11日 定期考査 16日 大学等説明会2学年+1学年希望者
- 25日 終業式 26日~1月7日 冬季休業日 講習 3教科4日実施
- 1月 (平成21年)8日 始業式 17、18日 大学入試センター試験
- 22日 合唱コンクール 27日 入学者選抜(推薦に基づく選抜)
- 2月 7日 保護者のための進路講座(講師:遠藤紀彦氏)
- 17日 入学者選抜(海外帰国生徒対象)
- 23日 入学者選抜(学力検査に基づく選抜)
- 24日 国際理解講演会(講師:大崎美紀氏)

- 3月 3~6日 定期考査 7日 卒業式(235名卒業)
- 10日 学校運営連絡協議会 13~16日 2学年修学旅行(沖縄)
- 23日 進路懇談会 25日 修了式、離任式
- 25日 授業評価協議会

- 父母と教師の会主催の竹早塾(土曜自習室)年間8回 (参加生徒数 延べ519名)
- 進路状況(合格者数一覧・平成20年度卒業生235名)

- 国立大学(20)
千葉大学(5)、埼玉大学(4)、東京医科歯科大学、東京学芸大学、鹿児島大学、信州大学、首都大学東京(7)
- 私立大学(386)
早稲田大学(12)、慶應義塾大学(6)、東京理科大学(17)、明治大学(27)、青山学院大学(7)、立教大学(17)、中央大学(16)、法政大学(38)、日本女子大学(7)、東京女子大学(11)、学習院大学(7)、明治学院大学(14)、成蹊大学(10)、武蔵大学(3)、成城大学(8)、日本大学(31)、東洋大学(34)、駒澤大学(3)、専修大学(3)、東京電機大学(5)、東京農業大学(11)、東京家政大学(6)、芝浦工業大学(11)、大妻女子大学(5)、昭和女子大学(4)、その他の大学(192)
- 短期大学(4)
青山学院女子短大(2)、日本体育大学女子短期大学部(1)、東京家政短大(1)
- 専門学校(12)
都立広尾看護専門学校、御茶ノ水美術専門学校等
- 就職(1)

4月からは新たに、藤田 稔副校長が就任されました。八百板副校長は都立文京高校の副校長として活躍されております。

在校生の活躍紹介

竹早生のほとんどが積極的に参加し、青春の健在ぶりを示す部活動。中でも華々しい活躍で注目を浴びる二つのクラブを紹介します。

文芸部

部長 新井 美帆

こんにちは。私たち文芸部は毎週火曜日と木曜日、主に文化部室で活動しています。

部員も徐々に増えていき、今では12人の大所帯となりました。

文芸部の主な活動は、年に4回出される部誌の発行です。また、リレー小説やお題小説、大賞応募など楽しく活動を広げています。

部室は演劇部と文化部室を共用しているため、お互い仲良く、いつも和気あいあいとした空気の中で楽しく活動しています。

普段は「ゆるく、楽しく」活動していますが、大賞応募、部員の増加などに即して、正しい小説の書き方を身につけようと、基本的な小説のルールを皆で確認したり、互い

に推敲し合ったりと文章力の向上も図っています。

仲間と共に成長していく私たちを、今後ともよろしくお願ひします。



女子バスケット部

キャプテン 平尾 沙綾

私たち女子バスケットボール部は、現在1年生5人、2年生9人、マネージャー2人の計16人で、顧問の千村先生、西野先生、岡田先生、OBのコーチの下で活動しています。

東京都の高校女子バスケットリーグは強い方から1部、2部、3部、4部で構成されていて、私たち竹早は現在4部です。2007年、2008年の大会では共に3部昇格を賭けた試合で惜しくも負けてしまいました。二度も3部に昇格しそこなった私たちは、その悔しさを胸に、試合に勝てるよう工夫をしながら皆で日々の練習に励んでいます。

日々の練習で私たちが意識しているのは、チームワークを高めることです。バスケットボールは個人プレーでなく、チームプレーのスポーツなので、学年同士は勿論、先輩後輩の間でもお互いの意見を言い合い、意志の疎通をはかるようにしています。

また部員の仲がより深まり、チームの力が一段と高くな

るのが、夏休みに尾瀬で行われる合宿です。合宿中の練習はいつもより厳しく辛いのですが、それを皆で乗り越えることで、技術も巧くなり、精神面も強くなれます。

私たちはこれからも一日一日の練習を大事にし、次の大会こそ3部に昇格できるよう頑張っていきたいと思ひます。





第二回 第二回篁寿会 (をとめの会改め) 開催

第二高女の拡大版同期会です

2008年11月8日(土) 学士会館にて開催

2007年の第一回「をとめの会(仮称)」でのアンケート結果に基づき、会の名前が正式に「篁寿会」となった開催でした。織戸さなへ先生、松崎悦子先生もおいでくださって、総勢77名の会になりました。

フリーアナウンサー・山地洋子さん(高校18回生)の司会で進められ、お楽しみ抽選会や、菊田幸夫さん(高校23回生)のテーブルマジックなどで、なごやかな会になりました。



抽選会
何が当たりましたか???



テーブルマジック
こんなに近くで見ているのに、
タネを見破れない・・・



今回も出席者の最高齢は
大橋文さん(高女26回生)
この会のひと月後に百歳のお誕生日を
お迎えになりました



そろってご出席の「三姉妹」



記念撮影 クラスメートとご一緒に、みなさんとても素晴らしい笑顔です。

2009年の「篁寿会」のお知らせ

今年は9月12日(土)に、同じ会場(学士会館)で開催されます。詳しいご案内は、この会報に同封された別の封筒に入っています。ぜひごらんくださいまして、予定に入れていただければ幸いです。返信用のはがきが入っておりますので、お早めに投函してください。ご出席のお申込を下された方には、会のひと月ほど前になりましたら、あらためてご案内をお送りし、ご出席の確認をさせていただきます。

「箎会特別セミナー」開講しました！

「大学受験の先にある 社会人生活を先取りしま専科！」

という宣伝コピーでスタートした「箎会特別セミナー」が昨年7月8日(火)に行われました。先輩たちがそれぞれの分野で関わった仕事への魅力を後輩に語ることが、進路設定への足がかりになるのではないかと思います、企画した出前授業が実現しました。

準備に足掛け2年を要しましたが、講師をお願いした箎会員の方がたは、後輩のためにこころよく引き受けてくださいました。感謝いたします。

講義は休憩をはさんで1時間半、大学並みです。2年生の必須科目としましたが9講座の同時進行でしたので選択制としました。複数受講の希望もあり、今後の課題といたします。

別表のように、いろいろな分野でのベテラン先輩が揃い踏みです。

海外で学んだデザイン理論を、課題も与えながら指導した金子さん。昭和という時代を支えた人びとの内面までを映像で表現した斎藤さん。若い人たちにこそ源氏物語の素敵なロマンを感じてほしい、と田中さん。タイミングよく裁判のウラオモテを熱く語る遠藤さん。倉石さんのパイロット体験談には受講者も目を輝かせていました。

百周年記念モニュメント『夢の風』の作者、陶芸の伊藤さんと彫刻の小堤さんは自作の前で、制作プロセスの解説から講義を始めました。特に伊藤さんは電動ろくろや粘土をはじめ陶芸材料と道具一式を運び込み、手仕事の楽しさを語りながら生徒たち一人ひとりにろくろ体験をさせました。はじめは尻込みして

いた参加者も粘土いじりの面白さに時間を忘れて取りこんでいました。

箎会の理事、小林さんと水田さんも講師として参加、企業や会社経営の現役としてグローバルな視点を持ちながら考えること、学ぶことの大切さを後輩に伝えました。

箎会の理事のみならず協力会員皆が総出で準備と進行にあたりました。クラス分けが大変だったとご担当の先生から聞きました。そして竹早高校父母と教師の会のお母さま方が、揃いのTシャツ姿で当日の会場設営や案内役を引き受けてくださいました。皆さま本当にありがとうございました。

当日のアンケート結果でも7~8割の生徒がこの企画について「賛同」し、講義も「理解」しやすく「楽しめ」進路を決める「ヒント」になったと答えています。

という訳で、今年もやります！乞うご期待。



インテリアデザイナー
金子 浩子



写真家
斎藤 康一



源氏物語研究家
田中 順子



弁護士
遠藤 きみ



元国際線機長
倉石 義郎



陶芸家
伊藤 麻沙人



宝飾企業ブランド管理室長
小林 稔



大学ボート部監督・会社経営
水田 茂夫



彫刻家
小堤 良一

特別セミナー講義科目名と講師の紹介

- 「快適な生活環境をつくるデザイン」…………… インテリアデザイナー 金子浩子(高校2回生)
- 「写真における記録の重要性・昭和の肖像」…………… 写真家 斎藤康一(高校5回生)
- 「源氏物語誕生千年のロマンを読む」…………… 源氏物語研究家 田中順子(高校12回生)
- 「裁判四方山話」…………… 弁護士 遠藤きみ(高校13回生)
- 「空駈ける夢を追ってー職業紹介・パイロット」…………… 元国際線機長 倉石義郎(高校15回生)
- 「陶芸入門・手仕事のよろこび」…………… 陶芸家 伊藤麻沙人(高校20回生)
- 「ラグジュアリー・ブランド最前線」…………… 宝飾企業ブランド管理室長 小林 稔(高校23回生)
- 「大学ボート部日本ーを目指して」…………… 大学ボート部監督・会社経営 水田茂夫(高校23回生)
- 「彫刻家の仕事・考える手」…………… 彫刻家 小堤良一(高校24回生)

今年も7月7日(火)に開講します！

関西篁会だより

武田 晴代 高校20回生(昭和43年卒) 篁68回生

平成20年の関西篁会総会は、10月26日(日)に開催されました。3年前からは毎年、大阪駅と直結して交通の便がよいホテルグランヴィア大阪で行っております。

当日は、東京より磯貝会長がご出席くださりありがとうございました。磯貝会長にはご就任以来、ご講演・ご寄稿等ご協力頂きこの場をお借りし厚く御礼申し上げます。

参加者20名の少人数ではありましたが、一つのテーブルを囲み美しい東京弁で「大先輩・中先輩・後輩」の思い出話や近況報告、野球の巨人ファン対阪神ファンと、話が途切れることなく、関西篁会の発足の経緯から、数年後には100周年をむかえるはず…記念の会を開催しましょうと話が盛り上がりました。幹事の神能様が、千代紙で作られた楊枝入れを参加者へのお土産としてそっとテーブルに置かれるなど、ほのほのと和やかな会となりました。

関西篁会は昨年度より新体制で進めることになりましたが、まだまだ問題点も多くしばらくは試行錯誤の運営が続くものと思われま

しかし、先輩方が築いて下さった伝統を未来へと引き継ぐために幹事一同微力ながら頑張る所存でございます。

どうぞ皆様、今後もよろしくお願ひ申し上げます。

今年、11月8日(日)に、会場は同じくホテルグランヴィア大阪で総会を開催予定でございます。

大阪も沢山見る所がありますし、京都・神戸も30分で行くことができます。観光をかね、どうぞ全国からご参加ください。お待ちしております。

篁会の発展を心より祈念いたします。



湘南篁会だより

影本 昌則 高校6回生(昭和29年卒) 篁54回生

5月16日(金)に総会と懇親会を、例年通り鎌倉市七里ヶ浜の「鎌倉プリンスホテル」で行った。

総会では幹事代表として影本が挨拶し、本年も橋本・業師寺両先輩(高女35回生)を始め高女出身の方々が多数ご出席頂いた事への御礼を述べた。来賓のご挨拶では、磯貝会長から「をとめの会」、「篁会特別セミナー」等最近の活動につきご報告いただき、田村幹事(高校6回生)から支部の会計と会員異動の報告があり総会は終了した。

懇親会は、前会長・大塚証子様(高校2回生)の乾杯で始まり、当ホテルシェフ自慢のフランス料理を賞味した。会食後、金子浩子様(高校2回生)から『個人的なスケジュールと私』というテーマでのお話を伺った。金子先輩は1週間の内3日を自己研鑽の日と決められ、それを①英語の研修②ヨガの習得③知的障害者のための工房(ボランティアとして)④コーラスの練習の4項目に振り分けられておられるとの事。お話の最後に、①と④との組み合わせから、秋田弁による童謡「大きな古時計」を歌われた。その何処となくフランス語風に聞こえる

不思議な歌詞と、美しい歌声に出席者一同驚嘆した。最後に高女・高校それぞれの校歌を斉唱し、村上幹事(高校8回生)の閉会の辞でお開きとなりました。

なお、平成21年度(2009年)の「総会と懇親会」は下記の通り。なお、地域外の参加者大募集中です。

日時：平成21年5月13日(水) 12:00-14:30
場所：鎌倉プリンスホテル 会費：7,000円



竹早エコー Takehaya Echo

市瀬 勝信 高校13回生(昭和36年卒) 篁61回生

土肥会の仲間達

昭和33年、竹早に入学した年の夏休み、阿部祐二、岩根弘明、門秀治、菅民郎、松本宣彦君等と、西伊豆土肥海岸で数日間、家を借り自炊生活をして過ごした。

鈍行で沼津まで行き西伊豆の澄んだ海の上を小さな船で行く旅も新鮮だった。薪で飯を炊き囲炉裏で味噌汁を作りコロッケ等をお菜に、時には早食い競争をしたりした。何を食べても美味かった。炊事は交代でやったが、後片付けがいい加減なものだから、前夜のカレーの具が翌朝の味噌汁に入っていた事もある。金が乏しくなると味噌やキャベツだけで飯を食べた。夏の土肥での生活はその後10年あまり続いたが、途中から民宿に泊まるようになり、自炊での日々は5年ほどで終わった。

昼は海辺でポケットしていたり、遠泳をしたり、海の家を手伝ったり、時には近所の子供達とソフトボールをしたりして、日暮れまで遊んだ。夜は学校でのフォークダンスで好きな娘と手をつないで嬉しかった、というようなたわいない話で、安酒を飲んで悪酔いしたり、麻雀をしたりと普段とは違う時間を過ごした。盆踊りに参加した時も、若い漁師達と喧嘩して街中を騒がせ、近所の響を買った時もある。借りた家の近くに、我々みんなが憧れた、清楚で美しい姉妹が住んでいて、なんとか仲良くなりたいと切に願ひ、そのためにいろいろと努力した。その後、一緒に尾瀬に行ったりして親しくなり、菅君は恋が実り妹さんと結婚した。そんな日々を過ごした土肥を去る時は、毎年の事だったが、遠ざかる街や、海岸の松林を、船の上から眺めなんとも言えぬ寂しい気持ちになった。

「同じ釜の飯」を食った仲間達は「土肥会」と称し折にふれて



集まり交友を続けている。彼等に会うと、勉強は嫌いだったが学校は好きだった、そして、皆で塀を乗り越えて学校を抜け出し、竹早食堂のメンカツ定食を食べに行ったりした、竹早時代が、髣髴として心に浮かんでくる。

伊藤 麻沙人 高校20回生(昭和43年卒) 篁68回生

美点を見つけろ、長所を探せ

竹早創立百周年のモニュメント「夢の風」を、同窓の彫刻家・小堤良一君と作らせていただいてから10年になります。

「おーい、その青年、なあにやってんだ!」「ほーれ、どこ見てんだ。ちゃんとしてみる!」「わしが直してやっから、どいてみる!」



芸大受験をめざす美術部員たちの頭上に強烈な栃木弁が飛びます。その頃、50代前半の小野政吉先生です。先生は体当たりで私達を指導してくださいました。今では考えられない事ですが、下校時間をとくに過ぎた夜の8時、9時。美術室だけが煌々と明かりをつけて熱気に満ちていました。私も指に血が滲むほどデッサンを描いた1年半でした。

私達は先生によって、世界に多くの夢があることを知り、その事を求めて青春が始まったように思います。その後、奨学金を貰いながらアルバイトに明け暮れた芸大時代、熱血の友人達、初めての作陶、一日を30時間にも50時間にも使えた朝日のように眩しい時代です。

溢れるほど夢のある人を若い人と言います。竹早高校の後輩達には、ぜひ素晴らしい人生の師に巡り逢って、熱い夢を育み、夢の風を吹かせて欲しいものだと思います。

教育には、知育、技育、徳育、美育、気育、体育とあるそうです。正岡子規は、人間形成には、特に徳育以下を重要に考えたそうです。知育に偏りがちな昨今の教育では、夢が何か、何に憧れるかを教え伝える事はできません。人々に篤く、気概に満ち、美に憧れる。私達が小野先生から学んだ事は、まさしくこの事でした。

先生が94歳で天寿を全うされてから5年が経ちます。

「ほーれ、どこ見てんだ。ちゃんとしてみろ!」

—— 美点を見つける、長所を探せ。

作陶家として、この事が私の生涯の仕事となりました。

【4月29日～5月5日 日本橋三越6階美術画廊Bにて作陶展を開催】

北角きよ子 高校25回生(昭和48年卒) 筆73回生

美術クラブと小野政吉先生、ステキ!!

「言うことなし。感激!」— 竹早の名物美術教師— 故・小野政吉先生が、私が高校で初めて描いた石膏デッサンの裏に、書いてくださった言葉です。始めたばかりの石膏デッサンだったので、力強いエールと感じました。こんなコメントを書きくださる先生って、すてき! と思い、即、小野先生率いる、美術クラブに入部してしまいました。クラブは明るくおらかな雰囲気でした。魅力的な先輩ばかり、同期の仲間も、それぞれの個性を認め合い楽しんでいただいているように思います。そのほとんどが今も、美術関係の仕事をしています。先生は正直でウイットのある方でした。私も図工専科教員として、そんな風情を持ちたいと思っています。

当時は、先生の100号、150号の油絵が美術室や準備室にあり、制作中の作品を見ながら、我々も石膏デッサンをしていました。夏休みには、千葉の太海に合宿、先生の常宿に泊まって、仁右衛門島という島に渡り油絵を描いたり、夜は遅くまでおしゃべりをしたりしたのが、忘れられない思い出です。

小野先生が愛してくださった美術クラブ、歴代先輩たちとも、先生の個展や公募展でお会いする機会があり、それぞれ美術界でご活躍とのこと。そのお一人が、筆会、現会長の磯貝さんです。磯貝さんとは小野先生の個展でお会いして以来のご縁です。

最後に、宣伝です。2009年10月6日～11日、豊島区の熊谷守一美術館で個展の予定です。お近くにおいでの際はぜひ、お立ち寄りください。竹早の思い出を語りあえたら最高! です。



銀座：ギャラリーでの個展作品
「うさぎの色窓」補正残像を使ったインスタレーション

北島恵美子 高校31回生(昭和54年卒) 筆79回生

30年ぶりの竹早山荘

高校に入学すると間もなく、竹早山荘に宿泊し、飯盛山に登るのが恒例行事でした。

私たち31回生も、山本コウタローの歌う『岬めぐり』を口ずさみながら、友や先生方と楽しくおしゃべりしながら山頂への道を歩きました。転任してきたばかりの浜道先生(国語)が、竹早高校で教えられていることが夢だったと喜んで話しておられたのが印象的でした。私にとっても憧れの高校だったので、学校生活の何もかもが煌めいていました。

よき友、実力ある先生方に出会い、有意義な3年間でした。しかし、何人もの友を亡くすことになってしまったこともまた、私にとっての竹早となりました。それぞれの友と過ごした煌めきの時間を今も時々思い返し、心の中に大切にしています。

約30年ぶりに、私は2人の息子を連れて山荘を訪れました。門から山荘までつづく木立ちは、優しく手入れされて綺麗になっていました。そこを通り抜けて目の前に現れた山荘は、昔と何も変わっていませんでした。テラス、靴箱や木の手すり少し急な階段、そして二階廊下の天井を走る明かり窓—。

その後、ハイハイホー(山荘の手入れ作業隊)に高一になった長男を伴って参加し、間伐の手伝いをしました。青々とした葉をつけ、みずみずしく生きている幼木に刃を入れると、その切り口から水がふき出しあふれ出ました。

私は思わずその切り株にしゃぶりつき、その水を飲みました。それは青く、甘かった。そしてすまないことをしたという気持ちが一—。

以来、私は木に話しかけながらのこぎりをひくようになりました。また、6月と10月には、14回生の黛さんの植物案内による飯盛山周辺のトレッキングに参加しました。6月の山頂辺りは、ズミの花が一面を白とピンクに染めていました。そして、山頂へとつづく道は、なんと、昔のままでした。

10月には、見事な紅葉を写真に収めました。また、サルナシ



またサルナシを発見!「我こそ!」とサルナシもぎの名人ぶりを競います。右から小杉さん、息子(守)、黛さん。皆もう、プロの目つき—。

が食べごろに熟れていて、先を争って収穫。木に登り、Y字の枝でもぎとり、その夢中になっている姿は、まさに子供のようでした。竹早山荘は、私の心のフィールドの延長にあります。残されていたから、これからも一緒に生きられます。先輩方、ありがとう。

和田 篤 高校60回生(平成20年卒) 筆109回生

今、思う事

竹早高校を卒業して、早一年が経とうとしている。昨年は、身の周りの事が、目まぐるしく変わる、まさに変化の年だった。大学生になり、環境の変化に戸惑いながらも、自分らしくいられる、唯一の場所を見つけることができた。それは、サークルだった。

僕は、竹早高校の部活で始めたのがダンスだった。そして、今のサークルもダンスである。大学生ではあるが、恥ずかしながら、今では、ダンスが生活の中心になっている。ここまで、熱中して、打ち込めるものを持っている事を、僕は誇りに思っている。大学生生活四年間、この信念は、貫き通していくつもりだ。

しかし、学業と趣味(サークル)との両立は、難しい。そんな事を共感し合いながら、いつも話しているのは、竹早高校での三年間を、一緒に突っ走ってきた親友達だ。この友達との絆は、大学に入学しても変わらず、これからも一生変わらないと思う。

就職氷河期と言われる時代、将来に、不安を感じることもあるが、就職をする為に、大学へ進学した訳ではない。学業で知識を得ることはもちろんであるが、夢中になって打ち込めるダンス、それを共感し合える仲間、これからの経験や新しく出会う仲間、その全てが、自分を人として成長させてくれるだろう。大学生活で、生きる力、人としての力をつけたいと思っている。

竹早高校時代に、打ち込めるものを見つけ、信じ合える友人に出会えたことは、大変、幸せなことだと思っている。



竹早高校ホームページアドレス
<http://www.takehaya-h.metro.tokyo.jp>
こちらから筆会ホームページへリンクできます。

『筆』回覧板

①開催日、②場所、③参加人数、④出席恩師、⑤幹事(連絡先)、⑥次回開催予定

●9回生同期会

①平成21年3月8日(日) — 古稀を祝う会 ②富士屋ホテル
③71名 ④織戸さなへ先生、辻忠二郎先生
⑤加川(旧姓梅田)美津子 ⑥未定

●11回生同期会(開催予告)

①平成21年6月21日(日) 13:30受付 14:00~17:00
②文京シビックセンター:26階スカイホール
③小杉義信、佐藤義勇、今西敏男、池田明子
TEL:04-2957-7196 <メール:yoshinobu-kosugi@nifty.com>

●14回生同期会

①平成20年10月18日(土)17時~20時 ②銀座東武ホテル
③55名 ④本多英男先生(奉寿を祝う) ⑤山内亨、大屋尚子
⑥平成22年秋を予定(開催20年目)

●17回生同期会

①平成20年9月7日 ②帝国ホテル ③60名
④大久保広行先生、本多英男先生 ⑤代表:永長隆徳、原嘉昭
TEL:090-1731-8774 <メール:hara-y@bd6.so-net.ne.jp>
⑥22年秋頃

●18回生同期会

①平成20年6月15日 ②第一ホテル東京 ③46名
④本多英男先生 ⑤森多恵子、秋田秀明、野川淑子 ⑥22年秋頃

●19回生同期会

①平成20年6月21日(土) ②銀座キャピタルホテル
③38名 ④晴山先生、柴崎先生、織戸先生
⑤代表幹事:菅原哲明 TEL03-5992-4431、久保孝子
⑥6月28日(日) ホテルグランドパレス、平成21年度筆会総会、懇親会にて振り替え。多数の参加期待。

●29回生同期会

①平成20年10月4日(土) ②文京シビック・スカイホール
③131名 ④高松尚弘先生、齋藤瑞子先生、大森義宏先生、石森勇先生、濱和廣先生 ⑤代表幹事(学年連絡会):古関恵一(メール:koseki@a2.rimnet.ne.jp)、町村庸子

筆会学年幹事連絡会からのお知らせ

2008年11月29日(土)14時から「第2回 筆会学年幹事連絡会」を文京シビックセンター研修室Aで、14時~16時まで開催。筆会の同窓会活動・会報発行などの継続に欠かせない集いとして、会員名簿の共有、筆会活動との連携強化、会費納入への協力依頼などをテーマに、第1回を2008年2月に。今回は、「同期会」開催にあたって、筆会として出来るサポート、各学年幹事からの要望など具体的な話し合いになった。

①同期会開催のノウハウを提供 ②名簿資料の提供
③会場選定に当たっての情報提供 ④同期会通知の往復はがきの印刷協力など。

また、会報の活用も話題に。4月初めの校了から逆算して、誌上での情報提供・同期メンバーへの呼びかけ原稿を募集することも検討。会報の発送時に学年ごとの連絡チラシを封入することも議論、印刷所への確認・調整をすることになった。

冒頭、磯貝会長から2008年竹早高校で開講した「筆会特別セミナー」についての報告と担当講師など協力の要請。各理事から「筆会活動」の紹介、小林副会長から話があり、その後、質疑・懇談。約2時間の意義ある集いとなった。

尚、日程の関係などで今回連携の取れなかった学年には、上記内容に沿った「同期会開催に当たって要望提案」の書類を発送しました。

<連絡先 yama-02@eagle.ocn.ne.jp>
筆会学年幹事連絡会事務局 山内 亨 高校14回生(37年卒)

追悼抄

笹山 清先生を偲ぶ



笹山 清先生

昨年(平成20年)3月10日笹山清先生(竹早在任昭和24年~52年体育教師)が92歳でなくなられた。本多英男先生(竹早在任昭和31年~42年体育教師)が旧制魚津中学1年(昭和18年)の時の恩師と聞き、お話を伺った。

『昭和15年東京オリンピックが予定された時、笹山先生はハイジャンプの選手として一位指名に名が上がっていたが中止となり、その後県の保健体育課に抜擢され指導主事を務めた後に竹早高校に勤務することになった。』

竹早在任中は、織田幹夫氏をはじめ猪谷千春氏、三浦雄一郎氏(お二人の父上と笹山先生が懇意だった)等一流のコーチを招聘して、生徒の指導に力をつくされた。

昭和25年、惜しくも都第2位で愛知県国体に出場出来なかったクラブのキャプテン達を視察団として編成され、名古屋へ連れて行き、勉強の場を作られた。

フォークダンスを日本に広められた大崎先生(フォークダンスの

緒形 拳さん逝く — 破天荒な高校時代 —

昨年10月5日、演劇界に名を馳せた緒形拳さんが71歳で亡くなった。映画・テレビで誰もがその演技力に魅せられた名優は、昭和29年5月入学の竹早の同窓生である。この年は、屋上に建設予定の教室の工事が遅れ、追加募集の形で、50名ずつ男女100名が1ヶ月遅れで入学してきた。その1人が緒形さんであった。県立千葉商業高校からの編入であった。千葉商業で野球部に在籍していた彼は、竹早入学と共に野球部に入った。当時野球部で一緒だった諸石さんと中嶋さんは、彼の球は速かったという。しかし、仲間連続で打られると、1ヶ月で野球部は退部。

戦後10年目の当時は、誰も生活の余裕はなかったが、彼は早や自立をしていて、苦学生であり、電気・ガスメーターの検針や後楽園のスケート場等のアルバイトをやっていた。

1歳上の兄が「俳優座」に所属、その影響もあり、その後は演劇部に入部。部を引っ張り、送別会のとき2年E組が演じた「寂しいところ」の演出も手がけた。3月には、新国劇に魅せられ、辰巳柳太郎を訪ね



オリジナルのレコードを沢山所持されていた)が当時体育の主任だったが笹山先生を竹早高校に招聘された。

昭和の初めに行なわれた世界バスケットボールのフリースロー大会で100球中98球を入れ優勝した記念の銀のバスケットボールが体育教官室に保存されていたが、校舎新築の為に竹早高校が新宿高校に移転した時に、紛失してしまい大変残念がっておられた。』

私は昭和33年卒ですが、富山県出身の笹山先生(通称笹っちょ)が富山弁まるだしで「あそこ」と指をさす時に「あこ、あこ」といわれ、時々何を話しているのか判らずまごまごしたことがありました。そんなことで、「笹っちょが国語の先生でなくてよかったなあ」と在学中に思ったことを懐かしく思います。

同期の浅井君が「今日は何をやるんですか」と聞いたところ、先生は「さあ、何やろうかなあ」と言ったので、「フォークダンスにしてください」と大声でこたえたと「よし、フォークダンスにしよう」と言ったとたん浅井君が「俺、手を洗ってくる」と走りだしたのや、放課後に同じクラスの金子征夫君が高下駄をはいて、校庭のテニスコートに入ったとき、烈火のごとく怒ったのを思いだし、笹山先生のやさしい面、きびしい面を約50年経った今でも懐かしく思いおこしています。

高校10回生 角掛 隆 記



笹山先生を偲ぶ会 2009.2.14 (本多先生、大西先生を囲んで)

ている。「高校を卒業してからいらっしゃい」と言われ、32年3月卒業とともに、再び辰巳の門を叩くが、認められず、翌33年春やつと内弟子となる。31年11月末、3年生で送別会の劇「王将」の坂田三吉に扮するが、彼を見て場内の皆は泣いたという。生徒の間からいつしか父母に伝わり、卒業式の後の謝恩会で是非と要請され、再び一部を熱演、諸先生や父母の絶賛を浴びた。

在学中、隣接する学芸大付属の高校生との喧嘩沙汰もあり、野球部顧問の國廣功先生や付属中の山本俊冬先生(今村昌平監督のいとこ)にお世話になったという。彼の芸域の幅の広さや興行の深さは、こんな破天荒の生き方が出ているのかもしれない。でも、何かあってもいつも「にっこり笑う」あの優しい笑顔に下級生は慕った。

その笑顔がいい緒形さんが、笑わなかったことがある。一昨年の春、親友だった諸石さんが劇団「若獅子」に友情出演している彼を楽屋に訪ね、別れるとき「お互い歳だから体に気をつけような。」と言うと、とても厳しい顔を返したという。病気を一切公表しなかった彼のシグナルだったのかもしれない。不治の病でさえ自身の生きる道に屈服させ、最期まで走り抜き、永遠に芸を昇華させた。日本演劇界にとっても、本校にとってもかけがえのない人を失った。

高校13回生 背戸 民恵 記

清里高原 竹早山荘から



同窓生の交流の拠点 自然体験—竹早山荘

— 体を動かし、心を開き、自然から学び —

竹早山荘は、清里高原の自然林・池・湿地、草原等豊かな自然環境に恵まれて、山野草が咲き、野鳥が飛び交っています。

吉村順三氏設計によるセミナーハウスをはじめ、多目的に使用できるアーチェリーの射場(100m×50m)、清里済々寮(穴窯・工房)、そして野外炊事場等があります。

合宿、研修、自然体験キャンプなどにご活用ください。

岐路に立つ竹早山荘

2008年12月に公益法人に関する法律が100年ぶりに改正され(財)竹早会は、今後5年の猶予期間内に財団のありかたを検討し、(1)公益法人財団(2)一般の財団(3)解散、のいずれかを選択しなければなりません。(財)竹早会は2010年、設立してから50年の節目を迎えることになります。さまざまな活動を通して公益法人としてその役割を担ってきましたが、その成り立ちについては案外知られていないので紹介しましょう。

継承したい寄付者の理念

(財)竹早会の基本財産は、小口郁子様(昭和17年卒)・木内昭子様(昭和19年卒)のお父上である上條秀介氏から私有地の寄付を受け、1941年に開園した学校農園(小平農園)を1959年に売却した資金が大きな財源となっています。上條秀介氏は昭和医学専門学校(現昭和大学)の設立者であり、教育理念に「至誠一貫」「不求一身安」を掲げて、戦前・戦中・戦後の若人に希望を託した方でした。



上條 秀介氏

その売却金と学校関係者、保護者、卒業生の支援金をあわせて1900万円とし財団を設立、八ヶ岳寮(竹早山荘)が建設されました。

多くの保護者、同窓生がその主旨に賛同し10年間にわたり学校債の発行に協力しました。

これによって、命の大切さを自然から学び、人間関係を深める研修の場としての環境を整えることが出来ました。八ヶ岳寮は竹早高校の課外活動の場として活用され、多くの学生の懐かしく、楽しい思い出に残る施設となりました。

しかしながら学校環境の変化によりその活動が休止状態におちいった時期に現理事長岩田隆子氏の父、澤登千明氏により、この自然環境を生かして若い世代が活用できる施設の補充としてアーチェリー場が整備されました。同氏の没後、改修工事費用が寄付され、新たな研修施設として広く活用されています。

竹早山荘は多くの人々が惜しみなくその労を提供し、存続している財団です。そのおひとりお一人の思いと設立時に寄付された浄財を生かして今後のあり方を検討してゆきたいと思っております。

同窓の方々のご意見をぜひお寄せください。

竹早会2009年の主な企画

(参加自由 詳しくはホームページをご覧ください。)

■夏休み子どもチャレンジキャンプ

7月26日(日)~29日(水)、8月22日(土)~25日(火)

■環境教育リーダー養成講座

ムツレ教室(5~6歳向け) 8月8日(土)~9日(日)

ストローバレー教室(7~9歳向け) 8月10日(月)

今注目の自然環境教育の先進国スウェーデンが開発した、自然教育プログラムのリーダー養成講座です。子どもたちをどのように自然の中に誘い出し、興味を持たせ、自然の循環の中で人間も生かされていることを理解させるかを考えるプログラムです。

幼児向けの養成講座を終了しさらに希望される方が、小学生低学年向けの養成講座に参加できます。

主催 日本野外生活推進協会・共催 竹早会

■森林インストラクター 黛 治男と歩く

《初夏のトレッキング》6月6日(土)~7日(日)

《秋のトレッキング》10月17日(土)~18日(日)

■山荘の環境を守るボランティア活動

5月9日(土)~10日(日)、7月18日(土)~20日(祝・月)、9月12日(土)~13日(日)、11月21日(土)~23日(祝・月)

■清里済々寮の秋の窯焼き

9月26日(土)~10月4日(日)

賛助会員募集 3,000円以上

昨年は、皆様のご協力でホールを漆喰で塗り替えることができ明るくなりました。今年はお風呂場の改修工事を計画しています。青少年の活動の拠点として維持していくために、皆様の変わらないご支援をお願いいたします。

振込み先 みずほ銀行 駒込支店 普通 0463246

ゆうちょ銀行 10130-2 7227111

郵便振替口座 00160-5-97121

ホームページ <http://www32.ocn.ne.jp/takehayakai/>

お問い合わせ・お申し込み 竹早会事務局

TEL 03-3943-2415 FAX 03-3941-5872

E-mail: takehayakai@forest.ocn.ne.jp

篁会について

—— 毎年会報が送られてきて、一応会費は納めているけれど、篁会についてはよく分からない。

—— 同窓会の組織だと言うことは何となく分かるけど、篁会ってどんなことをしているの？

時々こんな質問を受けます。

案外このような疑問をお持ちの方が多いのかもしれません。

実は篁会を運営している理事も、つい数年前まではみなさんと同じことを思っていたのです。

そこで今回は篁会の活動について改めてご紹介させていただくことにしました。



■ 篁会の生い立ち

篁会は1901年(明治34年)「東京府立第二高等女学校同窓会」として設立され、1922年(大正11年)に現在の「篁会」と改称されました。以来100年以上にわたり府立第二高等女学校、都立竹早高等学校の教職員、卒業生の親睦団体として活動を続けてきました。

現在は竹早高校、父母と教師の会と手を携え、過去から未来への架け橋としての役割を担うべく、常に進化し続けています。

■ 篁会の概要

■ 会員数

府立第二高等女学校、都立竹早高等学校の卒業生、旧教職員、現教職員を会員と定めています。現在の会員数は約13,000名ですが、1/3近くが平成以降の卒業生となっています。

■ 役員

会則で名誉会長、名誉顧問、会長、副会長、理事、会計、監査、学年幹事をおくことを定めており、名誉会長と学年幹事には任期を定めていませんが、他の役員はそれぞれ3年です。名誉会長は現職の竹早高校校長に、名誉顧問は前会長にそれぞれ委嘱することになっています。理事は学年幹事の互選か、現理事の推薦により理事会で選任されます。理事のみなさんには、それぞれの得意分野で力を発揮していただいています。

■ 会議

< 総会 >

総会は会員全員を対象にした会議です。年1回の開催を原則としており、篁会の事業報告、事業計画、会長の選任、理事会で選任した理事の承認をします。その他、会則の改正も総会の承認事項です。

< 理事会 >

理事を構成メンバーとして年3回を定例として行いますが、現在は定例会を含めて年5回程度開催しています。各理

事は総務、会計、広報、企画、会報、HP、総会、名簿などの業務を分担して行っています。また理事会には総会準備委員会、会報委員会、学年幹事会などの委員会を設置しています。

< 推進会議 >

理事会業務のそれぞれの責任者をメンバーとして、毎月1回連絡会を開催しています。また理事会に向けた提案等も議論されます。

< 学年幹事連絡会 >

各学年の学年幹事が集まり、情報交換を行うとともに学年間の連携を強める目的で設置されています。学年を通じての連絡、情報収集とともに、クラス会、同期会開催を支援していきます。

■ 篁会の事業について

■ 総会

卒業後42年目、31年目、21年目、1年目の学年を当番学年として、開催運営されます。ちなみに2009年度の担当は19回生、30回生、40回生、60回生となります。通常は総会に引き続き懇親会が開かれ、会員相互のコミュニケーションの場となっています。

■ 会報発行

会報委員会を中心に担当し、原則年1回の発行を目指しています。会報は篁会と会員を結ぶコミュニケーションツールとして大切な役割を果たしています。情報提供、原稿執筆など、会報発行にあたっては会員のみなさんのご支援が不可欠です。

■ 竹早祭への参加

毎年竹早祭に模擬店「お休み処たかむら」を出店し、会員の誘致とともに在校生、受験生に向けて竹早高校や篁会の認知促進を図っています。特に受験生やその保護者には竹早の歴史を知る良い機会のような感じです。年々動員数が高まり、今年は2日間で900名以上の来場がありました。

■ 篁寿会(こうじゅかい)

府立第二高等女学校に入学された会員を対象に、合同学年会として開催しています。開催までの煩雑な手続きや運営を、篁会がみなさんと協力しながら行います。2007年からの事業で既に2回開催しています。

■ 竹早高校への支援

■ 篁基金の進捗管理

竹早高校創立100周年事業の一環として設けられた篁基金の進捗管理を行っています。毎年約300万円が備品、用具などの購入に充てられています。

■ 特別セミナーの開催

学校との連携により、在校生を対象にした社会人講師セミナーを開催しました。講師は会員から選任し、実社会での体験談等を通じて、生徒たちの進路や職業選択の過程で役立つことが目的です。また先輩から在校生へのメッセージを伝える場としても活用させていただきたいと考えています。

■ 110周年事業

2010年度は竹早高校創立110周年にあたります。事業の内容、役割については学校や父母と教師の会などと協力しながら進めてまいります。会員のみなさんには会報やホームページでご報告いたしますので、ご支援ご協力をお願いいたします。

■ 篁会からのお願い

■ 会費納入

篁会の運営は会費によって賄われています。会費には入会金と年会費があります。年会費は一口1,000円で、一口以上のご負担をお願いしています。

篁会の活動は卒業生の親睦団体という枠を超えて、竹早全体の活動にまで広がってきています。この流れを継続、発展させるためには会員のみなさん、おひとりおひとりのご協力が必要です。何とぞご理解とご協力をお願いいたします。

■ 篁会活動への支援

篁会活動は会員のみなさんのボランティア活動で支えられています。様々な事業でみなさんのご協力が必要な場合があります。どうぞ積極的なお力添えをお願いします。

.....

篁会は会員みなさんのご支援ご協力によって運営されています。これからも開かれた篁会を目指していきますのでどうぞよろしくをお願いします。

なお篁会の情報はホームページでもご紹介しています。みなさんのご訪問をお待ちしています。

.....



↑ 竹早祭に模擬店「お休み処たかむら」を出店



篁会ホームページ
www.takamurakai.com



篁会のホームページは専用のサーバーで運用されています。総会のご案内、学年会やクラス会の情報をはじめ、これまで発行された会報「篁」のバックナンバーなどもご覧いただけます。また現在の校歌のほかに府立第二高等女学校の校歌を聴くことができます。まさに温故知新の体験ゾーンと言えるかも知れません。アドレス <http://takamurakai.com>

平成20年度「篁会総会・懇親会」報告

平成20年度の総会及び講演会それに続く懇親会は、6月15日新橋の第一ホテル東京において開催されました。出席者は来賓5名、高女(2名)から高校60回生までの総勢202名で、なかでも新卒の60回生は、昨年の倍以上の85名の参加があり、久しぶりの再会に歓声があちこちであがり、開始前のロビーは若さに溢れていました。



【総会】

野川淑子さんの司会で始まり、磯貝会長からは「新卒者に大変期待している。また篁会の行事へのご協力に感謝したい。」と、挨拶がありました。

次に豊岡副会長が議長に選ばれ、新任理事の紹介と承認があり、続けて、19年度の事業報告(竹早祭)、さらに篁寿会については古山理事、学年幹事連絡会については山内理事から、詳細の報告がありました。続いて佐藤理事より会計報告、萩監査役より監査報告があり、全て滞りなく承認されました。引き続き、藤島理事より平成20年度事業計画案である特別セミナー、竹早祭、篁寿会(を

めの会)、学年幹事連絡会の開催についての説明があり、ついで、小林理事より20年度の予算案の説明があって、全て承認されました。

【講演会】

笹平久仁子さんが司会を担当しました。出席者一同、大スクリーンに映し出される臨場感あふれる画面に食い入りながら、加藤學さんの講演を大変興味深く拝聴しました。

【懇親会】

田村和枝さんが司会を担当、最初に来賓の紹介、代表して浅田博校長の「きれいな学校、挨拶溢れる明るい学校を目指す。」とのご挨拶がありました。乾杯の発声を濱和廣先生(元校長)をお願いして、昨年同様の着席形式の懇親会が始まりました。後半の部では、筒井利行先生、本多英男先生にスピーチを戴き、その後、篁会PRコーナーでは、会報委員会の紹介があり委員全員が壇上に上がり、会報19号委員長の原嘉昭さんから会報への熱い思いが語られました。

次に、磯貝会長から篁会特別セミナーのお話及び講師紹介がありました。会も終盤にさしかかり、濱和廣先生が「竹早を心のふるさとに」とハーモニカで「ふるさと」を演奏してくださいました。続いて恒例の校歌斉唱があり、60回生から「私が50年後にはこのように前にたつて、会長をやります!!」との力強い言葉が飛出し、次回幹事学年19回生の鈴木輝夫さんから来年度の総会案内があつて、最後に今回当番幹事の秋田秀明さんの閉会宣言でお開きとなりました。



平成19年度「篁会総会」会計報告

(単位 円)

● 収入		● 支出	
会費	914,000	会場費・懇親会費	1,588,350
祝金等	130,000	講演会	150,000
篁会より補助	815,907	プログラム等印刷代	35,245
		通信費	25,930
		その他	60,382
合計	1,859,907	合計	1,859,907

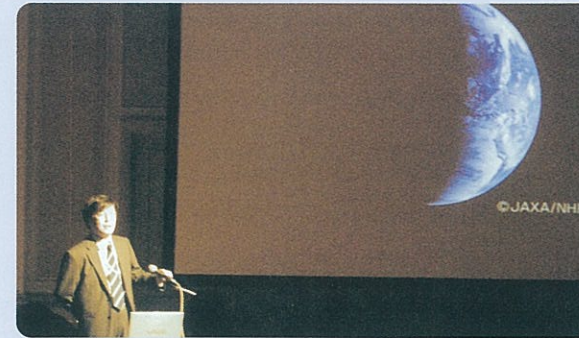


『月へのロマンに魅せられて』

— 加藤 學さん講演要旨 —

加藤學さんは宇宙航空研究開発機構(JAXA)の教授でいらっしゃることも、月探査衛星「かぐや」のサイエンスマネージャーです。また、東京大学と東京工業大学で地球惑星科学専攻の学生さんのご指導にも当たっていらっしゃいます。

今回の講演は、月探査衛星のために国民一人当たり500円の税金を使わせていただいているので、どういうことをやってきたのか、また、その結果どういうことがわかってきたのかをハイビジョン映像を見ながらお話ししたいということで始まりました。



「かぐや」は全長4.8mのマイクロバス程の人工衛星で、リレー衛星「おきな」とVRAD衛星「おうな」の2機の子衛星との3機で月にむかいました。

2007年9月14日に打ち上げることができました。打ち上げから45分後、高度約390kmで秒速11kmを得てロケットから分離されました。その後太陽電池パドルとアンテナを展開し、10月4日、月から100kmの軌道に計画通りに入りました。

地球から月までは38万kmありますが、途中の9月29日には11万km離れた場所からハイビジョンカメラで撮影した地球の映像が送られてきて、鮮明な映像に感動しました。

また、2008年4月5日には月の南極に昇る満地球の神秘的な美しさに、たずさわる私達もびっくりしました。

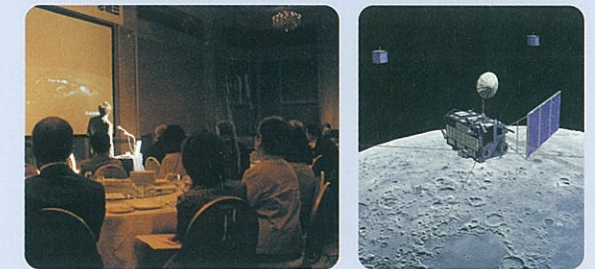
これまでに送られてきた月の映像には、隕石の衝突により生じた大小たくさんのクレーター、複雑な地形もはっきりと写し出されていました。

地球から見て表側の典型的なクレーターでは、地下から吹き出した溶岩に埋め尽くされているのも見られます。月の裏側では、溶岩はほとんど見られません。アポロ計画で人間が月に行き表側の海と呼ばれる所から採ってきた黒っぽい岩石は、三原山や浅間山にある玄武岩とほとんど同じでした。精密に調べた結果、地球にはない40~45億年前にできた岩石ということがわかりました。地球では、活発な火山活動や風水の活動がありそれらを見ることができませんが、月にはそのままの形で残されています。月を調べることが、地球の起源を知ることに繋がります。

月の起源についての研究が17世紀頃からありましたが、現在はジャイアントインパクト説が一番有力視されています。太陽系と地球がだいたい出来上がってきた46億年前、地球に火星位の大きさの天体がななめにぶつかり、地球のまわりにばらばらに飛び散ったものが多数互いに合体して月が生まれたという説です。合体した時に熱が発生し、表面の温度が高温になり融けていたかもしれません。それは月にはマグマの海が在ったということにつながります。月の起源を科学で解明することが「かぐや」の大きなテーマです。

JAXAでは、2020年以降に月に基地を作り日本人の飛行士を送りたいと計画しています。今年卒業したばかりの人はチャンスがたっぷりあります。宇宙飛行士に応募され、同窓会の代表として月に行くというのも良いのではないのでしょうか。

最後に、月の利用価値等の熱心な質問がありました。改めて、私達の住む地球がいかにかすばらしい星かということに思いを巡らしながら盛況のうちに講演会が終了しました。



理事会報告

平成20年度の理事会活動は以下の通りです。

【理事会】

●7月19日 第1回理事会 出席者17名 欠席7名

1)承認事項

- ・平成20年度総会収支報告の件(継続審議)
- ・総会・懇親会運営方法見直しの件
- ・新理事承認の件 古閑恵一氏(29回)の理事就任

2)報告事項

- ・篋会特別セミナーの総括

3)その他

- ・理事の担務見直しの件
- ・竹早祭の件

●10月9日 第2回理事会 出席者19名 欠席6名 委任状5通

1)承認事項

- ・平成20年度総会収支報告の件
- ・篋会細則(案)の件(継続審議)
- ・会報委員会細則(案)の件(継続審議)
- ・会計処理細則の件(継続審議)

2)報告事項

- ・竹早祭出店総括
- ・篋寿会進捗状況
- ・学年幹事連絡会進捗状況
- ・会報進捗状況および20号の体裁等確認

●1月24日 第3回理事会 出席者14名 欠席者11名 委任状5通

1)承認事項

- ・会細則改正の件 理事会運営細則、総会準備委員会細則、会報委員会、細則、会員名簿委員会細則、会計処理細則

2)報告事項

- ・平成21年度篋会総会・懇親会の件
- ・会報進捗状況
- ・会費納入状況
- ・創立110周年事業の件
- ・平成21年度篋会特別セミナーの件

●3月28日 第4回理事会出席者14名 欠席者11名 委任状6通

1)承認事項

- ・平成20年度収支報告案の件
- ・平成21年度予算案の件
- ・篋会問い合わせ専用携帯電話導入の件

2)報告事項

- ・平成21年度篋会総会・懇親会進捗状況
- ・会報発行進捗状況報告の件
- ・平成21年度篋会特別セミナーの件
- ・創立110周年事業の件

【推進会議】

●4月15日/5月13日/6月12日/8月30日/9月25日/11月5日/1月14日/2月25日/3月18日

【その他】

- 4月8日 竹早高校入学式に参列
- 7月8日 竹早高校にて篋会特別セミナー9講座開催
- 9月14日15日 竹早祭に「お休み処たかむら」を出店
- 11月8日 篋寿会開催 於:学士会館
- 11月29日 学年幹事連絡会開催
- 3月7日 竹早高校卒業式に参列
- 3月28日 篋会会計監査

篋会 平成20年度収支報告(案)

平成21年3月31日
平成20年4月1日より平成21年3月31日まで

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年繰越金	15,622,406	総会開催関係費	1,859,907
入会金・新入会員	1,864,000	贈呈記念品費	451,762
年会費	3,240,000	会報発行費	2,555,206
総会会費	1,044,000	会議費	77,407
出版物販売代金	5,000	通信費	2,810
雑収入	11,479	旅費交通費	25,960
諸事業収入	821,200	事務用品・消耗品費	30,395
受取利息	17,106	教育援助金	100,000
		慶弔費	30,000
		HP運営費	4,200
		諸事業経費	1,137,871
		会費入金払出手数料	240,160
		その他	0
小計	22,625,191	小計	6,515,678
		次年度繰越金	16,109,513
百周年事業基金	5,540,090	百周年事業基金	5,540,090
合計	28,165,281	合計	28,165,281

期末の現金預貯金等の残高			
現金		641,759	
預貯金	郵便局通常貯金	4,372,918	
	郵便局定額貯金	7,000,000	
	郵便局振替口座	50,000	
	みずほ銀行本郷支店普通預金	9,584,926	百周年事業基金を含む
合計		21,649,603	

篋会 平成21年度収支予算(案)

平成21年3月31日
平成21年4月1日より平成22年3月31日まで

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年繰越金	16,109,513	総会開催関係費	1,942,000
入会金・新入会員	1,920,000	贈呈記念品費	450,000
年会費	3,400,000	会報発行費	2,500,000
総会会費	1,212,000	会議費	200,000
出版物販売代金	10,000	通信費	80,000
雑収入	0	旅費交通費	50,000
諸事業収入(*1)	680,000	事務用品・消耗品費	10,000
受取利息	5,000	教育援助金	100,000
		慶弔費	50,000
		HP運営費	50,000
		諸事業経費(*2)	1,290,000
		会費入金払出手数料	250,000
		予備費	200,000
小計	23,336,513	小計	7,172,000
		次年度繰越金	16,164,513
百周年事業基金	5,540,090	百周年事業基金	5,540,090
合計	28,876,603	合計	28,876,603

*1	事業内容	予算
篋寿会会費		680,000

*2	事業内容	予算
学年幹事連絡会		100,000
竹早祭企画		150,000
篋寿会		780,000
篋会特別セミナー		150,000
110周年関連		100,000
名簿データ管理費		10,000
諸事業経費合計		1,290,000

篋会役員名簿(平成21年4月現在)

会長	磯貝 恵三(高校7回生)	理事	藤島 磁郎(高校17回生)
名誉会長	浅田 博(竹早高校校長)	〃	松島 美弓(高校17回生)
顧問	星野 昌子(高校2回生)	〃	秋田 秀明(高校18回生)
副会長	豊岡 貞之(高校15回生)	〃	野川 淑子(高校18回生)
〃	小林 稔(高校23回生)	〃	森 多恵子(高校18回生)
理事	内山 光政(高校10回生)	〃	菅原 哲朗(高校19回生)
〃	柏木 洋子(高校12回生)	〃	鈴木 輝夫(高校19回生)
〃	板東 尚武(高校13回生)	〃	木村 民子(高校19回生)
〃	山内 亨(高校14回生)	〃	香川 洋子(高校20回生)
〃	土田 善則(高校15回生)	〃	吉岡 新(高校21回生)
〃	榎本 毅(高校16回生)	〃	水田 茂夫(高校23回生)
〃	古山浩之助(高校16回生)	〃	細田 裕美(高校28回生)
〃	佐藤美紗子(高校16回生)	〃	古閑 恵一(高校29回生)
〃	原 嘉昭(高校17回生)	〃	平川 悟(高校52回生)
		監査	池田 明子(高校11回生)
		〃	萩 隆之介(高校12回生)

お知らせ

●年会費納入のお願い

いつもご協力ありがとうございます。昨年度より、年会費の複数口受け付けがはじまり、おかげさまで予算を上回る増収となりました。これからも同窓生相互の交流、親睦を深めるため、さらに母校及び現役生に貢献できるためにも、篋会会計の充実を図りたく、会員の皆様のいっそうのご協力を宜しくお願い申し上げます。

【年会費は複数口受け付けます】
同封の郵便振込用紙をご利用ください。

- ・年会費 1口1,000円 1口以上
- ・総会参加費 8,000円(参加の方のみ)

●「篋〇〇回生」について

会報のなかに、今号から「篋〇〇回生」と記載されてる事にお気づきでしょうか。これは1901年の第一回卒業生が「篋1回生」=「高女1回生」、1966年卒業の高校18回生は「篋66回生」、2009年の卒業生は「篋109回生」=「高校61回生」というようになります。会員同士の卒業年数の差異がすぐわかり、今後、会報や総会等で用いるようになります。

●ご意見・ご希望は

会報は同窓生みんなのものです。本誌へのご意見・ご希望を同封のハガキ(総会出欠用)等でお寄せください。「篋会・会報委員会」
また、住所等が変わられた方は、下記までお知らせください。

〒112-0002 文京区小石川4-2-1

東京都竹早高校内 「篋会・名簿委員会」

篋会連絡用電話 090-8853-1901

編集後記

18年間休刊となっていた会報が蘇ってから、いよいよ20号の発行を迎えました。これまで、会報を大事に育ててこられた先輩の皆様方に、敬意を表したいと思います。また今号に原稿をお寄せくださった方々に心からお礼申し上げます。これからは会報を、会員同士の情報交換の場として利用していただき、一人でも多くの方が楽しんで手にしていただけるよう願っております。

最後に編集委員の皆様のパックアップと同期の委員の力添えに深く感謝いたします。(野川 淑子)

謹んでご冥福をお祈り申し上げます

旧職員	氏名	出身校	卒年	訃年	備考
河治 春世	地理	2007.10.26			
藤田 政雄	公民教育	2006.9.26			
大石 力	保健	1998.12			
金子 史郎	地学	2008.3.14			
塩澤 利雄	英語	2008.8			

篋21回	高女21回	1921	大10女	小林 俊	(下山)	2003
篋22回	高女22回	1922	大11女	向坂 ゆき	(嶺)	2007.6.21
篋22回	高女22回	1922	大11女	淵脇 トシ		2009.1
篋24回	高女24回	1924	大13女	尾形美寿々	(遠藤)	2007.10
篋24回	高女24回	1924	大13女	木村 とし	(金沢)	1995.8
篋24回	高女24回	1924	大13女	匠達 静子	(林)	2000.1.24
篋24回	高女24回	1924	大13女	永山 漣子	(平岡)	
篋25回	高女25回	1925	大14女	松浦 花枝	(小出)	2008.1
篋26回	高女26回	1926	大15女	甲 大藪 きみ	(大藪)	2007.10.07
篋30回	高女30回	1930	昭5女	乙 安孫子喜美子	(広本)	2008.12.
篋30回	高女30回	1930	昭5女	甲 富谷 正	(富谷)	2008.6.2
篋31回	高女31回	1931	昭6女	乙 大井 秀子	(坂本)	2005.10.21
篋31回	高女31回	1931	昭6女	甲 岡崎 照子	(小坂)	2007.7.25
篋31回	高女31回	1931	昭6女	乙 島崎 恵美	(柳沢)	1999
篋31回	高女31回	1931	昭6女	甲 長澤真佐子	(青葉)	2007
篋31回	高女31回	1931	昭6女	甲 山崎 京	(奥山)	2008.8.22
篋32回	高女32回	1932	昭7女	乙 藤波 綾子	(福田)	2007.8
篋32回	高女32回	1932	昭7女	乙 吉岡 初子	(渡邊)	
篋33回	高女33回	1933	昭8女	甲 粕谷喜久子	(福田)	2008.1
篋33回	高女33回	1933	昭8女	甲 堺田喜久子	(安心院)	2008.2.07
篋34回	高女34回	1934	昭9女	甲 春日 裕子	(伊藤)	2007.9
篋34回	高女34回	1934	昭9女	乙 田辺 清子	(井上)	2008.4.9
篋35回	高女35回	1935	昭10女	紅 板倉 恭	(上野)	2008.3.3
篋35回	高女35回	1935	昭10女	白 小方 高子	(小方)	2006.6
篋35回	高女35回	1935	昭10女	紅 五月女治子	(阿部)	2007.11
篋35回	高女35回	1935	昭10女	白 菅原 充子	(新田)	2007.8.02
篋35回	高女35回	1935	昭10女	白 高澤としえ		2008.6.9
篋36回	高女36回	1936	昭11女	紅 柴原 孝子	(小山)	2008.7.21
篋36回	高女36回	1936	昭11女	白 松本ふさ子	(木内)	2008.2.28
篋37回	高女37回	1937	昭12女	紅 塩原 富子	(橋本)	2007.11.22
篋37回	高女37回	1937	昭12女	白 菅谷 節子	(菅谷)	2006.8.25
篋37回	高女37回	1937	昭12女	紅 高橋 節子	(竹居)	2007.8.17
篋37回	高女37回	1937	昭12女	紅 矢澤 淑子	(中村)	2006
篋38回	高女38回	1938	昭13女	白 奥原ミチ子	(武井)	2008.7.2
篋38回	高女38回	1938	昭13女	紅 神谷 英子	(松本)	2008.1.07
篋38回	高女38回	1938	昭13女	紅 篠塚 瑤子	(伊藤)	2007.8
篋38回	高女38回	1938	昭13女	紅 中野 光子	(富永)	2006
篋38回	高女38回	1938	昭13女	紅 藁田瑠璃子	(長谷川)	2007.8.13
篋39回	高女39回	1939	昭14女	白 小川 てい	(板倉)	2008.8.19
篋39回	高女39回	1939	昭14女	白 荻原 菊江	(高橋)	2008.4.26
篋40回	高女40回	1940	昭15女	白 石山 睦子	(五月女)	2007.6.11
篋40回	高女40回	1940	昭15女	紅 市村西都子	(田島)	2005.8.16
篋40回	高女40回	1940	昭15女	紅 後藤千恵子	(冨塚)	2008.3.26
篋41回	高女41回	1941	昭16女	白 岩田 淑子	(出穂)	2006.11
篋41回	高女41回	1941	昭16女	紅 宗 飛佐	(鈴木)	2008.7.14
篋43回	高女43回	1943	昭18女	紅 廣木富美子	(岡島)	2007.5.25
篋44回	高女44回	1944	昭19女	紅 今村美智子	(宮下)	2007.12
篋44回	高女44回	1944	昭19女	紅 小沢 和子	(阿部)	2008.7.17
篋45回	高女45回	1945	昭20女⑤	白 佐下橋吉子		2005.3.17
篋45回	高女45回	1945	昭20女⑤	白 松尾 久子	(鈴木)	2007.12.24
篋45回	高女46回	1945	昭20女④	白 佐藤紗子	(三好)	2007.12
篋45回	高女46回	1945	昭20女④	白 森脇貴美枝		2008.5.30
篋46回	高女45回	1945	昭20女⑤	白 忍田 澄江	(飯岡)	2007.4.29
篋46回	高女46回	1945	昭20女④	白 菅原 照子	(矢島)	2005
篋46回	高女46回	1945	昭20女④	白 中村多美子	(伊与部)	2005.9.02
篋48回	高女48回・高校1回	1948	昭23女	白 金田 和子	(森田)	2008.5.21

篋51回	高校3回	1951	昭26高	H 加藤 和子	(野口)	2004
篋51回	高校3回	1951	昭26高	K 吉川百合子	(長崎)	2009.1.17
篋52回	高校4回	1952	昭27高	白 小山 豊子	(前川)	2008.10.28